



防災の知識をより身近に

飯野小学校で防災道具などの体験

飯野小学校で7月29日、防災道具などを体験できるイベントが開催されました。

これは、NPO法人子育て応援おきな木(木村由美子代表)が主催したもので、参加者は炊飯に利用されるハイゼックスを使って蒸しパンを作ったり、ソーラークッカーという太陽の熱を利用した調理器具でポップコーンを作ったりするなど、楽しい・おいしい体験を通し防災グッズへの理解を深めました。その他にも特殊な水袋を使った消火体験や防災おはなし会が催されました。



燃え盛る火を模したプレートに水袋を勢いよく投げる子どもたち



意見交換をする田上会長、中村むつ子会長と西村町長

「帰ろうよ！ハスの花咲く住マイル堂園！^{どうぞん}😊」

まちづくり協議会で初となる提案書を町に提出

堂園地区まちづくり協議会が8月9日、西村町長に、町内のまちづくり協議会で初となるまちづくり計画の提案書を提出しました。

同協議会は勉強会を経て、今年3月に設立され、その後、精力的に役員会や全体集会を重ね、設立から5か月で今回の提案書提出となりました。

田上勝志会長は、「町にすべてをお願いするのではなく、自分たちでできることは自分たちでやっていきたい」と、堂園地区のまちづくりに意気込みを述べました。

さまざまな記憶を継承し次代へ

益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会

8月11日、益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会が交流情報センターで開催されました。

この委員会は、平成28年熊本地震での経験、反省および教訓を風化させず、正しく後世に継承していく具体的な取り組みを検討し、推進していくため設置されたもので、学識経験者や地域住民の代表、町議会議員などで構成されています。今回初めてとなるこの会では、委員長に柿本竜治熊大教授が、副委員長に坂田みはる町議が就任することが決定しました。



各専門部会などに分かれ、本格始動します

Pickup Plus
今月のプラス+

広島地区で「あいさつ標語」の募集が行われ、総数211通の応募作品の中から選出された20点が、地区公民館など各所に掲示されることとなりました。同地区の森永安生総区長は「益城町の元気を取り戻すためにも、まず大人も子どももみんなであいさつすることを習慣化したい」と語りました。